

家庭科における「清掃学習」の起点

—明治期検定前家事科教科書の分析から—

表 真 美

(本学特任教授)

1. 研究の背景と目的

(1) 小学校学習指導要領「家庭」に示された「清掃」

平成29年告示小学校学習指導要領「家庭」には、「B衣食住の生活」の中に「住まいの整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること。」との内容が含まれている¹⁾。小学校学習指導要領解説家庭編には、「住まいの清掃の仕方については、児童が日常よく使う場所を取り上げる。学校や家庭での体験を基に清掃について見直し、なぜ汚れるのか、何のために清掃するのかを考えさせるとともに、床や窓などの汚れの種類、汚れ方に応じた清掃の仕方が分かり、状況に応じた清掃の仕方を理解し、適切にできるようにする。また、汚れは時間が経つと落ちにくくなることや、住居用洗剤は取り扱い方によって危険を伴うものもあるため、表示をよく見て使用する必要があることなどにも気付くようにする。さらに、和室の畳の清掃の仕方にも触れ、日本の生活文化に気付くことができるようにする。」との解説がみられる²⁾。

小学校家庭科では、「生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う」ことを目標としており³⁾、学習した内容を家庭で実践することを重視している。現在の家庭の掃除の状況に目を向けると、ロボット掃除機の機能が向上し、床拭きロボットや、様々な機能があるものも出現している⁴⁾。また、家事のアウトソーシングは現状では広く普及していると言えないものの⁵⁾、今後拡大することが考えられる。掃除もその例外ではない。家庭での掃除の状況は、大きく変化しつつある。これからの「清掃学習」の内容は、慎重に検討する必要があるだろう。

(2) 家庭科における清掃学習の先行研究

家庭科領域における清掃学習の研究は多くなく、そのほとんどが教材開発や実践報告、実態調査である。たとえば、6年生の家庭科授業の一環として、学校をきれいにして卒業する「学校清掃活動」を実践した報告⁶⁾、「快適な住まい」について、児童自身が課題を設定して整理・整頓や清掃に探究的に取り組んだ実践がある⁷⁾。この実践は、批判的思考力や、地域等を含めた住環境の改善に向けた実践力・意欲を高める効果が報告されている。

また、小学校教師を対象としたアンケートでは、清掃活動指導上の課題として「指導時間」「人材」「機材」の不足が挙げられ、家庭科清掃研究における工夫点として、家庭や学校の清掃実践との連携が指摘されていた⁸⁾。さらに、小学校家庭科授業の住居分野の実施時間は他分野に比べて短く、教師自身の興味関心も他分野に比べて低い傾向が報告されている⁹⁾。

そのなかで、高等女学校家事科検定教科書を用いて、明治期から昭和戦前期の学校における「家庭の掃除」に関する教育の内容が明らかにされている。以下にその概要をまとめる。

高等女学校家事科検定教科書の分析を行った結果、以下4点の知見が得られた。①対象とした49種中47種の教科書から掃除に関する記述が抽出された。多くの教科書は上巻の「住居」の章に掃除についての節が含まれていた、②毎日の掃除に加え、曜日を決めて重点的に掃除を行う週掃除、また、月掃除、春秋の大掃除を行うことが記され、毎日の掃除は、払い掃除、掃き掃除、拭き掃除、洗い掃除について掃除の仕方

が説明されていた、③大正期以降、柄付雑巾や電気掃除機が労力を減らし、効果的に掃除ができる道具として推奨されていた、④誰が掃除をするかについては、明治期は使用人の記述があったが、大正期には「主婦」「婦人」が多くみられ、昭和期にはその記述が減少した、⑤掃除は住居の保存上また衛生上重要であることが多くの教科書に記されていた。また、大正中期以降、特に昭和期には、掃除は「精神上」重要との記述が複数見られた¹⁰⁾。

現在行われている清掃学習は、既に明治期から行われていたことが明らかである。

(3) 第2次世界大戦後における家庭科の「清掃学習」

1) 1947 (S22)～1957 (S32) 年の小・中・高等学校家庭科学習指導要領

表1 1947～57年の家庭科学習指導要領

小学校	
1947 (S22)	「学習指導要領 家庭科編 (試案)」
1956 (S31)	「小学校学習指導要領 家庭科編」
中学校	
1947 (S22)	「学習指導要領家庭科編 (中学校第四・五学年用) (試案)」
1951 (S26)	「中学校学習指導要領 職業・家庭科編 (試案)」
1957 (S32)	「中学校学習指導要領 職業・家庭科編」
高等学校	
1947 (S22)	「学習指導要領 家庭科編 (高等学校用) (試案)」
1949 (S24)	「学習指導要領 家庭科編 高等学校用」
1956 (S31)	「高等学校学習指導要領 家庭科編」

1947 (S22)～1957 (S32) 年の家庭科の学習指導要領は「試案」を含めて8件である(表1)。「清掃」の内容について調べたところ、小学校対象2件、高等学校対象1件の計3件に清掃の内容が含まれており、中学校学習指導要領には清掃の内容には見られなかった。以下にその内容の詳細を述べる。

1947 (S22) 年の小学校「学習指導要領家庭科編 (試案)」は、第六章、第五学年の家庭科指導の「単元三 自分の事は自分で」の中に「C身のまわりの片づけ方」(19頁)、「単元四 家庭における子供の仕事」のなかに「D清潔の責

任」(23-24頁)との項目があり、「清潔の責任」の目標として「掃除能力の発展」とあった。1956 (S31) 年の「小学校学習指導要領家庭科編」の第2章小学校家庭科の目標と内容、第2節内容には、「住居」に含まれる5項目のなかに、「清掃」「せいとんと美化」が含まれていた(16頁)。「清掃」は「そうじのしかた」と「掃除用具」の2項目があり、「そうじのたいせつなわけがわかる」「いろいろのそうじのしかたがわかる」「計画的・能率的なそうじについて知る」「場所に応じたそうじのしかたがわかる」「大そうじについて時期・方法・効果を知る」「そうじに関心を持ち、進んで行うようになる」の6項目が指導の要点として挙げられていた。

これらの項目を後述の本研究の分析項目に照らすと、「そうじのたいせつなわけ」は⑦～⑩の機能的側面、「そうじのしかた」は③手段、「計画的・能率的な掃除」は⑨家事的機能、「場所」は②空間、「時期」は①時間にあたり、第2次世界大戦前の家事教科書の多くが説明していた清掃学習¹¹⁾に関する内容を多く含んでいた。

1949 (S24) 年の学習指導要領家庭科編高等学校用では、「Ⅷ住居」の単元5が「住まいの清潔、家具・器物の手入れの興味」(186-187頁)とされていた。当該の高等学校学習指導要領以降は、掃除の内容はみられなかった。

2) 小学校学習指導要領の変遷

1958 (S33) からこれまでに7回告示された小学校学習指導要領における「清掃学習」に関する内容は、時代と共に変化している(表2)。

まず、第2次世界大戦後には、清掃だけでなく、戦前には強調されていなかった「整理・整とん」が独立した項目として加わった(1947年は「身のまわりの片づけ方」)。1958 (S33) 年の学習指導要領には、前述の1956 (S31) 年の学習指導要領と同様に、衛生上、精神上的の清掃の必要性や、身じたく、掃除用具など、明治から大正・昭和戦前期の教科書に登場した内容が多く含まれていた。また、1958 (S33) 年、1968 (S43) 年には、整理箱、整理袋、ごみ箱など、清掃用品、整理用品の製作が課題にあげられていた。そして、1977 (S52) 年、1989 (S

表2 小学校学習指導要領における「清掃」に関する内容

告示年	「清掃」に関する内容
1958 (S33)	<p>C. すまい (第5学年)</p> <p>(1) すまいの清掃の正しい仕方を理科させ、簡単なそうじ用品を作らせ、進んで清掃を実行するようにさせる。</p> <p>ア すまいを清掃することの必要について、衛生上、精神上などから考える。</p> <p>イ そうじに適切な身じたくについて考える。</p> <p>ウ すまいの各部の清掃の仕方を知り、実践するように努める。</p> <p>エ そうじ用具の種類や使い方、しまい方および手入れのしかたを知る。</p> <p>オ ぞうきん、ちりとり、くず入れなどのような簡単なそうじ用品を作ったり、修理加工したりする。</p> <p>(2) すまいの整理・整とんのしかたを理解させ、実践させるようにする。</p> <p>ア すまいを整理・整とんする必要について考える。</p> <p>イ 自分の持ち物の整理・整とんのしかたについて類別、使用に便利な置き方、使用度数による置場所、整とんの美しさなどを考えてくふうする。</p> <p>ウ 室内用池の周りの整理・整とんのしかたをくふうする。</p> <p>エ 調和のあるものの置き方を考える。</p> <p>オ 整理箱または整理袋を作って活用するように努める。</p>
1968 (S43)	<p>C. すまい (第5学年)</p> <p>(1) すまいを清潔にし、気持ちよく済むために、清掃や整理・整とんのしかたを理解させ、それらに必要な簡単なものを作らせる。</p> <p>ア すまいの清掃や整理・整とんの必要についてわかること。</p> <p>イ すまいの各場所に応じた清掃のしかたを考えること。</p> <p>ウ 計画的、衛生的、能率的なすまいの清掃の方法、用具の扱い方などについて考えること。</p> <p>エ 自分の持ち物の整理・整とんのしかたについて類別、使用に便利な置き方、使用度数による置き場所、整とんの美しさなどを考えてくふうすること。</p> <p>オ 室内や家のまわりの整理・整とんのしかたをくふうすること。</p> <p>カ 簡単な清掃用品または整理用品を作って活用すること。</p>
1977 (S52)	<p>C. 住居と家族 (第5学年)</p> <p>(自分の持ち物の整理・整とん、床、窓などの清掃、清掃用具の取り扱い及びごみの処理が適切にでき、気持ちの良い住まい方を工夫することができるようになるようにする。</p>
1989 (H1)	<p>C. 家族の生活と住居 (第5学年)</p> <p>(2) 身の回りの整理・整とんや清掃の適切な仕方がわかり、気持ちよく済むことが出来るようにする。</p> <p>ア 収納の仕方を工夫し、自分の持ち物の整理・整とんができること。</p> <p>イ 材質や汚れに応じて適切な清掃ができること。</p> <p>(3) 身の回りの品物について活用の仕方が分かり、不用品やごみを適切に処理できるようにする。</p>
1998 (H10)	<p>(6) 住まい方に関心をもって、身の回りを快適に整えることが出来るようにする。</p> <p>ア 整理・整とんや清掃を工夫すること。</p>
2008 (H20)	<p>C. 快適な衣服と住まい</p> <p>(2) 快適な住まい方について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方がわかり工夫ができること。</p>
2017 (H29)	<p>B. 衣食住の生活</p> <p>(6) 快適な住まい方</p> <p>ア 次のような知識及び技術を身に付けること。</p> <p>イ すまいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。</p>

64)年には製作がなくなり、「ごみ」の内容が加わった。そして、1998(H10)以降は、内容が「整理・整とん、清掃」に集約され、現在に至っている。

(4) 研究目的

以上のように、高等学校家事科教科書の検定が始まった明治30年代から今日まで、家事科・家庭科において、一貫して「清掃学習」が行われていることがわかっている。それでは、家事科において、どの様に「清掃学習」が始まったのか。家庭における清掃の状況が変化し、家庭科住居分野における「清掃学習」に課題がみられる現在、これからの教育の内容を検討するうえでも明らかにすることが必要である。

そこで本研究の目的は、家事科教科書から「清掃学習」の起点を明らかにすることである。前述の先行研究の対象よりも時代を遡った明治期の検定以前の教科書には、掃除学習の内容が含まれているのか、また含まれているのであれば、どのような内容なのかを分析する。

2. 研究方法

(1) 用語の整理

まず、本研究の主題である「清掃」について、用語の整理をする。小学校学習指導要領では、上述のように、家庭、特別活動とも「清掃」という言葉を用いている。一方で、2社から発行されている現行の小学校家庭科教科書においてはどちらも「そうじ」が使われている^{12) 13)}。訓示的解釈では大きな違いはなく、清掃活動、道路清掃など、熟語になる場合を除いては、現在の日常生活では「掃除」が「掃除する」の動詞にもなり「清掃」よりも多く使われる傾向がある。第2次世界大戦前の家事科では「掃除」が多く使われている。本研究では、「清掃」の文言が使われている場合を除き、「掃除」を使用することとする。

(2) 研究資料

対象資料は、明治期検定前教科書である。常見育男『家庭科教育史』「第七部家庭科教育文

献目録、二明治前期の家庭科教育史資料としての文献の調査」の中の明治前期(明治元年～同36年)家事教科書リストを参考にした¹⁴⁾。常見が示した32の家事科教科書から、慶応3年刊行の片山淳之介『西洋衣食住』、明治33年刊行の塚本はま子著『家事教本』、および重版された2種(『経済小学・家政要旨』『家事儉約訓』)を除いた。また、育児、家庭経済、調理の専門書6種(村田文夫『子供育草』、近藤鎮三『母親の心得』、作者不詳『保嬰新言』、石橋好一『小児養育談』、石川県師範学校『厨の心得』、林茂雄『生計秘訣』)、および資料入手不可能だった2種(入江陳重『齐家必携』、栗原竜女『女子必携・家事経済』)を除き、20種を対象とした。主に国立国会図書館の蔵書を利用した(表3)。

対象教科書の中には、翻訳書(1, 2, 3, 4, 6, 9, 16)、明治14(1881)年「小学校教則綱領」により小学校に設置された「家事経済」を対象にした教科書(A5, 7, 8, 11, 12, 13, 14, 15)を含んでいる。明治19(1886)年までに刊行された教科書は、小学校で使用され

表3 対象明治期検定前家事科教科書

No.	刊行年	書名	編著者・原著者
1	1874 (M7)	家事儉約訓	永田健助訳・チェンバース(英国)
2	1876 (M9)	経済小学・家政要旨	永峰秀樹・ハスケル(米国)
3		家内心得草	穂積清軒・ビートン(米国)
4	1880 (M13)	改正女範	小田深蔵・ラレンツ(ドイツ)
5		家政小学	小林義則
6	1881 (M14)	家中経済	西村茂樹・ヘンリハルツホールン(米国)
7		家事経済訓	青木軒清
8		婦女必携・家事要訓	前田寅七郎
9	1882 (M15)	家事要法	海老名晋・ピーチャー、ストウ(米国)
10		女子経済訓	小田清風
11	1882 (M15)	家計原理	篠田正作
12		家事経済教授本	小田深蔵
13		家事経済論	藤田久道
14	1883 (M16)	家事経済訓蒙	日下部三之助
15		家庭経済録	岸田正
16	1886 (M19)	家事経済	石川米子・ピーチャー、ストウ(米国)
17	1888 (M21)	家政読本	林吾一
18	1889 (M22)	女子家政学	瓜生寅
19	1890 (M23)	家政学	清水文之輔
20	1893 (M26)	家政学	下田歌子

た可能性がある。

(3) 教科書記述の分析方法

分析資料である家事科・家庭科教科書から抽出した記述の分析視点作成には、生活構造論を援用した。家事科教科書の記述は、家族の生活行動を述べるものであるため、「生活構造」概念によって、諸個人の具体的・個別的な行動のあり方を説明しようとする生活構造論が応用できると考えた。また、各時代における複数の教科書を同一の分析軸を用いて体系的に分析することにより、各時代の掃除教育にどのような特徴があるのかを具体的に説明することを可能にするためである。

表4 分析の視点

		分析項目	記述内容例
構造的 要因	どのよう に掃除を 行うか	① 時間	いつ掃除をするのか
		② 空間	どこを掃除するのか
		③ 手段	どのように掃除をするのか
		④ 道具	何を使って掃除をするのか
		⑤ 役割	誰が掃除するのか
機能的 側面	掃除を する意味	⑥ 経済的行為	家屋(財産)を守る
		⑦ 対社会的行為	外部への美観等
		⑧ 文化的行為	教育的・精神的効果等
		⑨ 家事的行為	家事の合理化等
		⑩ 生理的行為	健康・衛生等

生活構造論は、松原治郎が提示した「家庭生活の構造」¹⁵⁾、および青井和夫が提示した「生活行為分析のマトリックス」¹⁶⁾を採用した。両生活概念が示された著書『生活構造の理論』(有斐閣1971年)は東京都民の生活構造の特性と社会福祉を調査するために組織された研究会の成果であり、「生活構造概念の整理に大きく貢献」¹⁷⁾した。32年後の2003年に再版、また、青井による論文は、これまでの重要な社会学研究を収録した『リーディングス日本の社会学』に収録されている¹⁸⁾。両者は、生活構造を個人の生活行為の体系として一般化した。特に松原の概念は家庭生活の構造を的確に示す概念として、後の家政学の文献にも度々引用された¹⁹⁾。家事科の教科書は、生活目標達成のための生活行為を示すものであるため、これらの概念があてはまると考えた。そこで、以下の「掃除」行為の概念10項目を分析の観点として教科書の分析を行っ

た(表4)。

まず、「構造的要因(どのように掃除を行うか)」として、外枠的要因である「①時間」、「②空間」を設定、いつ、どこを掃除するのかを分類した。つぎに、媒介的要因として、掃除をどのようにするのかとして「③手段」、そして掃除道具の変遷を掃除方法と分けて調べるため、松原、青井の項目には含まれなかったが、「生活手段」に含まれる構造として、どのような道具を用いて掃除をするのかを「④道具」に分類した。内部的要因については、だれが掃除をするのかとして「⑤役割」をあげた。

「機能的側面(掃除をする意味)」に関しては、青井が提示した8項目のうち、家事労働に適合する5項目を採用した。家屋という財産を守るために掃除が大切といった内容は「⑥経済的行為」、掃除をしないと外観が悪くなるといった内容は「⑦対社会的行為」とした。また、「⑧文化的行為」は子どもの教育に関する内容など、「⑨家事的行為」には家事の合理化などに関する内容を、「⑩生理的行為」に掃除は衛生上大切といった記述を分類した。

明治期検定前教科書、小学校家庭科教科書について、10項目の観点の有無、詳細な内容を分析し、掃除に関する教育の時代による特徴を分析した。この分析枠組みは、明治から昭和戦前期の高等学校家事科検定教科書を対象とした先行研究²⁰⁾の分析方法に準じている。特に家庭科教科書は、2つの出版社が継続して改訂を重ねながら発行をしており、著者や出版社が異なる家事科教科書とは異なる性質をもつものであるが、明治期から現代までの記述の違いを比較するために、同じ分析方法を用いた。

3. 結果および考察

(1) 分析結果

対象とした20種の教科書のうち11種から掃除に関する記述が抽出された(表5)。最も刊行年が古い1874(M7)年刊行の翻訳本である『家事儉約訓』(資料1)に記述が見られた。その内容の詳細については、後述する。また、「第十章 室内掃除のこと」(資料5)、「第十六章

表5 検定前家事科教科書分析結果

資 + N10 + A + A 3 : N25	書名	記述の 有無	掲載頁	構造的要因 (どのように掃除を行うか)					機能的側面 (掃除をする意味)				
				①時間	②空間	③手段	④道具	⑤役割	⑥経済 的行為	⑦対社 会行為	⑧文化 的行為	⑨家事 的行為	⑩生理 的行為
1	家事倭約訓	○	上巻17-18	○				○			○		
2	家内心得草	○	28	○	○			○					
3	家政小学・家政要旨	×											
4	改正女範	○	下巻7-8	○							○		○
5	家政小学	○	巻-29-31	○				○			○		○
6	家中経済	×											
7	家事経済訓	○	巻之二12-14	○		○		○			○		○
8	婦女必携・家事要訓	○	上巻7-8		○					○			○
9	家事要法	×											
10	女子経済訓	○	下巻4-6	○	○			○					○
11	家計原論	×											
12	家事経済教授本	○	11-12	○	○	○	○	○			○		○
13	家事経済論	×											
14	家事経済訓蒙	○	巻上21-24	○	○	○	○	○		○	○		○
15	家庭経済録	×											
16	家事経済	×											
17	家政読本	○	上巻20-21			○	○						○
18	女子家政学	×											
19	家政学	×											
20	家政学	○	下19-23	○	○	○	○	○	○	○	○		○

洒掃の事」(資料7),「第七章 住居及ヒ洒掃」(資料10),「第四章 内外の掃除」(資料14),「第五 掃除」(資料17),「住居の掃除」(資料20)のように複数の教科書が章や節を設けて掃除について述べていた。

抽出した掃除に関する記述を10項目の分析枠組みを用いて分析した結果,多くの教科書から,該当する内容が析出された。特に『家事経済訓蒙』(資料14)の記述は,表3に示した10項目中8項目に関連する事項について言及していた。例えば,①時間は「毎朝きて塵埃を拂ひ」「早朝に於て」,②空間は「居室寝室等は」「浴室等は別けて」「厠を掃除したる時ハ」と,場所による掃除の仕方を説明し,③手段は「窓戸を開きて,塵埃を拂ひ」など,④道具は,雑巾を塩湯にしたしよく絞って拭ふへし」とあり,⑤役割,掃除の主体は「家婦」であった。また,掃除の機能についても詳しく述べられており,⑦対社会行為は「他人一見して」「他人より見るも潔し」,⑧文化的行為は「一家の繁栄」「自ら快きものなり。其れハ其日の業を執るにも精神

活発にして勞を忘るる」とあり,⑩生理的行為については(塵埃の堆きハ)「伝染病の媒介」「健康を害すること少なからず」とあった。これらの記述は,明治期高等女学校家事科検定教科書の記述²¹⁾と類似しており,検定前の家事科教科書の記述がのちの教科書に影響を及ぼしていたことが明らかとなった。

各項目を詳細にみると「①時間」は,「平常:「三ヵ月に一度又ハ一ヵ月に一度」(資料1),「毎日房室を瀟掃し」(資料4),「日々に注意して」(資料5),「毎朝厠を瀟掃」「朝夕心を用ひて」(資料12),といった記述が析出された。また,月曜日から金曜日まで掃除すべき部屋を示すものもあった(資料2)。

「②場所」は,前述のように資料2は,「寝所」「客間」「食堂」など,日によって場所を変えて掃除をすることを推奨していた。また,「特に厨房,塵芥場」の掃除は注意を要するとの記述が析出された(資料8)。

「③手段」どのように掃除をするのか,については,多くの教科書が,場所や掃除を怠った

際の不利益をあげて掃除をすべきとのみ記述しており、詳述している教科書は少なかった。雑巾や布を使って「拭く」というものだった（資料12, 14, 20）。その中で資料17では、「室内の掃除ハ先ヅ窓戸ヲ開キテ、敷物ヲ捲キ去リ室外ニ於テ之ヲ揮ヒ、家具ノ軽キ者ハ總テ室ノ中央ニ集メ、（後略）」のように掃除の手順を詳細に説明していた。

高等女学校家事科検定教科書を分析した先行研究²²⁾では、大正期には労力を減らす道具として柄付雑巾（モップ）や電気掃除機が紹介されていたが、この時代の「④道具」への言及は多くなかった。「雑巾」（資料12, 14）、およびガラス窓を拭くための「絨布」22）（資料4）が析出された。

掃除の主体に関しては、20年間で変化がみられた。「⑤役割」に関する記述が抽出された教科書のうち、資料1、資料5は「家婦および婢僕」資料2は「召し使い」であったが、その後「女子」（資料7）、「婦人女子」（資料10）、「婦女」（資料12）、「家婦」（資料14）、「主婦」（資料20）と推移した。

高等女学校検定教科書には、掃除は家を長持ちさせるためといった「⑥経済的的行為」が強調されていたが²³⁾、検定期以前の教科書においては「家屋の破損」（資料20）以外は析出されなかった。

「⑦対外的行為」に関しては、資料8には、塵芥や汚物を放置すると健康を害するので、「近隣の人」と協力して掃除すべき旨が述べられていた。資料14には前述のように、掃除を怠ると「他人一見して（中略）家事の不行届を知るに足れり」とあった。

「⑧文化的行為」は、「家風の一般」（資料1, 5）、「家政の良則」（資料4, 7, 12）、「一家の繁栄」（資料14）、「心ばへ」（資料20）が析出された。

今回、掃除の機能として「⑩生理的行為」が多く述べられていた。「身体の健康」（資料4）、「身の健康」（資料5）、「身体健康」（資料7, 20）、「健康」（資料10, 12, 14, 17）が析出された。今回の分析では家事の合理化などに関す

「⑨家事的行為」に該当する記述は認められなかった。

以上、抽出された11件の記述の全体を見渡すと、各々に違いはあるものの、類似した内容であることがわかる。前に刊行された教科書が、後の教科書に影響を及ぼしていたと考えられる。

（2）家庭科における「清掃学習」の起点

表6 『家事儉約訓』と『Household Hints, Chambers's Information for the people V.2』の掃除に関する記述の比較

『家事儉約訓』 pp.17-18	
家屋及ヒ器什衣服ヲ洗淨ニスルノ方	房室ヲ清淨ニスルノ良法ハ細小ノ事物ニ至ルマテ日々注意シテ洒掃シ清潔ナラシムベシノ然ラズシテ煤塵家屋ニ充滿スルマデ掃除ヲ怠リ俄ニ大洒掃ヲナスハ甚ダ宜カラザルナリノ世間ノ家婦及ヒ僕婢ナドハ平常細カニ洒掃ヲ遂ズシテ三ヶ月ニ一度又ハ六ヶ月ニ一度ノ大洒掃ヲナスト思ヘリノ其ノ如クナレバ房室ノ器什處換ヘ内外混乱スルノミナス房室の内常ニ不潔ナルベシノ殊ニ其家風ノ一般ニ懶惰ナルヲ見ルニ足レリ
『Household Hints, Chambers's Information for the people V.2』 p.787 (筆者による日本語訳)	
掃除と研磨	家のきれいにする最善の方法は、毎日小さなことに注意して、家をきれいに保ち、汚れたり散らかったりしないように、丁寧に定期的に掃除をすることである。／一部の主婦や使用人は、家を「定期的な掃除」、つまり3か月か6か月に1回、大量の掃除とこすり洗いを行うべきだと考えているようである。／その場合、家は殆ど内と外とが逆になり、最も不快になる。／このようなすべてのことは経済上の弊害であり、人々の習慣がだらしなさを示すものである。
『Household Hints, Chambers's Information for the people V.2』 p.787 (該当箇本文)	
CLEANING AND POLISHING	The best way to clean a house is to keep it clean by a daily attention to small things, and not allowing it to get into such a state of dirtiness and disorder as to require great and periodical cleanings. Some mistresses, and also some servants, seem to have an idea that a house should undergo 'regular cleanings', or great bouts of washing and scrubbing, once every three or six months, on which occasions the house is turned almost inside out, and made most uncomfortable. All this is bad economy, and indicate general slovenliness of habits.
(太字、文の切れ目の斜線は筆者による)	

掃除に関する記述が抽出された『家事儉約訓』（資料1）は、原著が特定されている²⁴⁾。原著である『Chambers's Information for the people V.2』（国立国会図書館蔵書）の最終章である『Household Hints』を確認したところ²⁵⁾、“Cleaning and Polishing”の前文に該当する文章があり、ほぼ原著通りに訳されていた（表6）。また、後に発行された小林義則『家政小学』（資料5）には、「其の掃除を怠りて、俄かに大掃除をするは宜しからざるなり」と、『家事儉約訓』（資料1）の記述に影響を受けたと推察される記述が抽出された。

また、1876年刊行の翻訳本である『家内心得草』（資料2）には、「召使の仕事」の項目内に曜日ごとに場所を決めて掃除をすべきことが具体的に記されていた。本書は、近年原著が再調査され、「Beeton's Every-Day Cookery and Housekeeping Book（1872）の前半部分 Philosophy of Housekeeping のなかの項目1から174まで」と明らかになった²⁶⁾。この原著は入手出来なかったため、これ以前に原典として示されていた²⁷⁾『Beeton's the Book of Household Management』（国立国会図書館関西館蔵書）を確認した²⁸⁾。『家事儉約訓』のように確実に翻訳が該当する箇所は見出されなかったが、「House-Maid」の仕事の章には、30頁にわたる仕事の説明の中に極めて詳細な掃除についての記述が見られた。冒頭には「清潔さは敬虔さの隣にある」と諺は言う。House-Maidは最も顕著な美徳の2つに対する使用人であると言える。彼女らの義務は非常に多く、家族の快適さの多くは彼女らの仕事に依存している。しかし、それらは、生まれながらに清潔に整然とした人にとっては単純で容易であり、望ましい満足が得られる。」（筆者訳：『The Book of household Management』項目2420, 1026頁）とあった。また、「(前略) House-Maidは規則正しく仕事をするため、特定の部屋を徹底させるために日を決めなければならない。例えば月曜日に居間、火曜日に2つの寝室、水曜日に2つの寝室というように(後略)」といった『家内心得草』の内容と類似した記述が見られた。当時の欧米の家政書には、使用人の仕事としての掃除が重視されており、その方法について詳しく述べられていたことがうかがえる。

(3) 考察

我が国では、年末の「すす払い」などが年中行事として守り継がれており²⁹⁾、剣道、茶道などの武術や稽古事の稽古の前後には、稽古場の掃除が重んじられる。社員教育に掃除を取り入れる企業もみられる³⁰⁾、スタジアムで掃除をする日本人や、球場のごみを拾う日本人野球選手の行動が世界的に注目された³¹⁾。禅宗では、

日々の掃除に真剣に取り組むことは、どんな修行にもまさる「一掃除二信心」との教えがあり、禅寺では雑巾がけを基本に毎朝掃除が行われる³²⁾。「心を磨く」といった表現により掃除と精神性を結び付ける風潮は、仏教をはじめとする我が国特有の文化であり、家庭における清掃との関連が考えられる。

しかし、家庭科における清掃学習の起点は西欧の家政書であることが判明した。また、検定前、検定後の教科書に一貫して散見される毎日の掃除、週掃除、月掃除、季節ごとの掃除というように、計画的に場所を決めて行う方法は、ルールを決めて使用人を管理する西欧の翻訳本から影響を受けたと考えられる。

西欧にも「清潔さは敬虔さの隣にある」（『The Book of household Management』項目2420, 1026頁）のように、掃除を重要視する言葉があることがわかったが、掃除の主体は使用人であった。初期の家事科翻訳書は使用人としていたが、その掃除は主婦の仕事に変化したことから、「西洋の掃除」を元にした日本独自の清掃学習が形成されたことがうかがわれた。

資料1・2の翻訳教科書が、その後に刊行された検定前の教科書の内容に影響を及ぼし、その後の高等学校家事科検定教科書の清掃学習³⁴⁾の土台になっている。また、高等女学校検定教科書の内容が1956（S31）年の「小学校学習指導要領家庭科編」の清掃学習の内容に影響を及ぼしていた。従って、家庭科の「清掃学習」起点は翻訳教科書にあると考えられる。

4. 要約および今後の課題

本研究では、明治期における検定前の家事科教科書を主な研究資料として、「掃除教育」の起点を明らかにした。その結果以下の2点にまとめることが出来る。

- 1) 対象とした検定前家事科教科書20種のうち11種から掃除に関する記述が抽出され、明治7（1874）年刊行の翻訳家事科教科書から記述が見出された。家事科における掃除教育の起点は翻訳家事科教科書にあり、その内容は英国やアメリカで執筆された家政書から影響

を受けていることが明らかとなった。

2) 検定前の家事科教科書の掃除学習の内容は、既に研究報告が行われている高等女学校家事科検定教科書の内容と類似しており、高等学校家事科検定教科書に影響を及ぼしていることが明らかとなった。

今後は、第2次世界大戦後に、掃除教育が小学校家庭科の内容に位置付けられた理由を解明したい。また、諸外国の家庭科における「掃除教育」に関する内容についての調査を行い、これからの掃除教育を検討するための資料とした。

注および引用文献

- 1) 文部科学省 (2017) 第2章各教科第8節家庭、小学校学習指導要領 (平成29年告示), 138.
- 2) 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説家庭編, 61-62.
- 3) 前掲書1) 136
- 4) 日経新聞 HP 「(前略) AI 除菌清掃ロボット「Whiz i IRIS EDITION」を発売」(2020年11月4日配信)(2025年11月5日入手)
https://www.nikkei.com/article/DGXLRS542764_U0A101C2000000/
- 5) キリンホールディングス HP 「生活者調査 家事の外部化」(2021年12月24日配信)(2025年11月5日入手)
<https://wb.kirinholdings.com/trend/research/79.html>
- 6) 佐藤郷美 (2016) 日常で活用する能力を育む小学校家庭科の授業づくりの試み, 東北福祉大学教職研究109-119, 2017-03-27
- 7) 萬羽郁子, 藤田智子, 西岡里奈, 倉持清美, 渡瀬典子 (2023) 小学校家庭科の整理・整頓および清掃学習に関する授業提案: 探究的な活動および領域横断的な視点を取り入れた授業による効果, 東京学芸大学論叢 1 53-65
- 8) 萬羽郁子, 藤田智子, 渡瀬典子, 西岡里奈 (2025) 小学校における家庭科清掃学習と学校清掃指導に関する実態調査, 日本家庭科教育学会誌 68 (1), 15-
- 9) 正岡さち, 小谷智恵, 亀崎美苗, 田中宏子 (2012) 鳥根県的小学校家庭科における住教育の実態と課題, 鳥根大学教育学部紀要, 46, 53-60
- 10) 表真美 (2021) 学校における「家庭の掃除」に関する教育の歴史の変遷—高等女学校家事科検定教科書を資料として—, 家政誌, 72, 260-271
- 11) 前掲論文10)
- 12) 鳴海多恵子, 石井克枝, 堀内薫 (代表) (2024) 私たちの家庭科5・6年, 開隆堂出版
- 13) 岡野雅子, 甲斐純子, 勝田映子, 岸田蘭子, 杉山久仁子, 鈴木明子, 鈴木明子, 妹尾理子, 中西雪夫, 浜島京子, 平野江美, 南佳子, 横山みどり (2024) 新編新しい家庭5・6, 東京書籍
- 14) 常見育男 (1959) 家庭科教育史, 光生館, 東京, 429-432.
- 15) 松原治郎 (1971) 家族の生活構造, 生活構造の理論, 有斐閣, 116-118
- 16) 青井和夫 (1971) 生活実態へのアプローチ, 生活構造の理論, 有斐閣, 京都, 182-185
- 17) 三浦典子 (1986) 概説 日本の社会学 生活構造, リーディングス日本の社会学5生活構造, 東京大学出版会, 東京, 3-13.
- 18) 前掲書15) 56-71
- 19) 岡村益, 横山シゲ (1982) 家政学の考え方と研究法, 高文堂出版社, 東京
表真美 (2001) 家庭・家政を考える, 家政学原論 生活総合科学へのアプローチ, 朝倉書店, 東京, 113-135など
- 20) 前掲論文10)
- 21) 前掲論文10)
- 22) 前掲論文10)
- 23) 「絨布」(ジューフ)「厚手の柔らかい布」といった意味
- 24) 谷口彩子 (1991) 永田健助訳『百科全書 家事儉約訓』の原典研究 (第1報), 家政誌, 42, 103-110
- 25) William and Robert Chambers. Chamber's Information for the People V.2 (Reprint of 5th ed., originally published by W. & R. Chambers, 1875), Eureka Press. 2005
- 26) 山田千聡 (2024) 翻訳家政書『家内心得草 一名保家法』(1876)の原典再調査: Beeton's Every-Day Cookery and House-keeping Book, 日本家政学会誌 75 (8), 375-384
- 27) 亀高京子, 犬尾智穂子 (1986) 『家内心得草』と MRS. BEETON'S 『THE BOOK OF HOUSEHOLD MANAGEMENT』, 家政学原論部会会報, 20, 20-24
- 28) Mrs. Isabella Beeton, The Book of household Management Entirely new edition, Ward, Lock and Co. 1869
- 29) 朝日新聞 DIGITAL 「西本願寺と東本願寺, 恒例のすす払い 昨年に続き規模は縮小」(2021年12月20日配信)(2025年11月5日入手)
<https://www.asahi.com/articles/ASPDN3RP2PDNPLZB003.html>
- 30) 鍵山秀三郎 (2005) 掃除道 会社が変わる・学校が変わる・社会が変わる, PHP 研究所, 京都
- 31) 産経新聞 HP 「世界に広まる日本サポーターの「ゴミ拾い」セネガルや3か国サポーター

- も会場を清掃」(2018年6月27日配信)(2025年11月5日入手) <https://www.sankei.com/sports/news/180621/spo1806210026-n1.html>
- 32) PRESIDENT Online 「なぜ大谷翔平はゴミ拾いもトイレ掃除も嫌がらないのか…高校時代から守り続けている「佐々木監督の教え」「楽しいより正しいで行動しなさい」」(2024年4月18日配信)(2025年11月5日入手) <https://president.jp/articles/-/80509>
- 33) 有馬頼底(2013)『「雑巾がけ」から始まる膳が教えるほんものの生活力』, 集英社
- 34) 前掲論文10)

付記

本研究は科研費基盤研究(C)「学校清掃の社会文化的背景と教育効果」(研究代表者: 表真美, 22K02190)による研究である。